

中村やすひろ通信



2022年は歴史の分岐点とも言える年でした。ロシアによるウクライナへの軍事侵攻と、関連して世界経済の大混乱、日本国内にあっても燃料・物価高に拍車がかかりました。首相経験者が凶弾に倒れるという前代未聞の事件も発生しました。まさに、私たちの「安心」の価値観が大きく揺さぶられた年だったのではないのでしょうか。

杉並区政にあっても岸本新区長の誕生という変化がありました。区政が混乱し、区民生活へマイナス影響が及ぶことは避けなければなりません。皆さまに安心と希望を届けられるよう、全力を尽くしてまいります。

令和5年1月 中村 康弘

議会質問 “医療崩壊”を防いだ「財政のダム」

「区の財政運営のしくみは継続する」(岸本聡子区長)

令和4年第3回定例会で一般質問

2022年9月16日、岸本聡子区長を迎えての初の区議会定例会が開催され、私は一般質問を行い、区の財政運営についての岸本区長の考えを伺いました。以下、再質問での答弁を含む要旨です。

(中村) 岸本区長は、区長に就任した後、区の職員から区政の現状を聞き、安定した財政基盤の維持が必要と認識したと述べられた。そのような認識に至った最大の理由は何か。

(岸本) 区長選の際には、私は、区の財政状況をよく理解できていなかった。区長に就任した後、区の財政の状況や特別区の財政制度等を学ぶなかで、一定の安定した財政基盤を築くことが重要であると認識を新たにしました。これまで積み立ててきた財政調整基金がコロナ禍にあって医療崩壊を防ぐなど、迅速に、かつ効果的に活用されてきたことを理解した。これまで区が構築してきた財政運営の方針は継続する。

(中村) 『財政のダム』としての積立基金は、コロナ対策でどのように活用されてきたのか。

(岸本) 緊急対策として100億円以上を財源に、感染症予防、ワクチン接種、中小企業・生活困窮者支援等、迅速にコロナ対策を実施することができた。健全財政の確保は、区民福祉の向上に欠かすことができない。今後もこれまで通りの財政運営のやり方で取り組んでいく。

録画映像の視聴 ⇒



「財政のダム」で安定した財政基盤を訴え続けてきました

杉並区は、「持続可能な財政運営」の仕組み(ルール)を定め、非常時の備えとして、「**財政のダム**」=財政調整基金への積立を長期的な視点に立って進めてきました。実際のコロナ禍において、区は区内医療機関への緊急財政支援を含め100億円を超えるコロナ対策を「財政のダム」から“放流”(支出)することで、医療崩壊を防ぎ、区民の暮らしを守ってきたのです。



地域の魅力再発見

紅葉ライトアップ「第3回 今川紅灯路 in 観泉寺」

2022年11月19日(土)・20日(日)、杉並区今川2丁目の観泉寺を舞台に、紅葉のライトアップ「第3回 今川紅灯路 in 観泉寺」が開催されました。私も実行委員を務めています。過去2年はコロナ禍により中止となりましたが、昨年3年ぶりに開催されました。1日目は1200名以上、2日目は雨にもかかわらず400名以上の方々が訪れました。紅葉、光、雨滴、音楽、歴史の融合により素敵な空間が彩られました。



「子ども食堂ほーぷ」@農福連携農園「すぎのこ農園」



「杉並区農福連携農園 すぎのこ農園」(杉並区井草3-19-23)。「農業」と「福祉」の連携により、障害者や高齢者などに農業に親しむ場を提供し、食育やいきがい創出などにつなげる取り組みを行う施設です。「子ども食堂ほーぷ」が、2カ月に1回、この農園で収穫したばかりのフレッシュな野菜を使い、老舗ラーメン店(野方ホープ)が作った特別ラーメンを提供しています(予約制で、中学生までは無料。高校生以上は100円)。



私もお手伝いをさせていただいています。

杉並の農の風景を再現した管理棟。江戸時代中期の建築とされる旧井口邸(上井草2丁目)の部材を活用しています。いろいろや土間、火鉢が置かれた畳の部屋があり、昔の農機具が展示されています。



PROFILE 《プロフィール》

中村 康弘 (なかむら やすひろ) 昭和41年12月14日生まれ 56歳

【略歴】

和歌山市出身。創価大学法学部卒・米サンダーバード・グローバル経営大学院国際経営学修士(MBA) 外資系企業勤務等を経て、平成19年4月より杉並区議会議員(現在4期目)

【主な役職】

公明党東京都本部 政策局次長、杉並区議会公明党 副幹事長

【委員会所属】

総務財政委員会、DX・議会改革に関する特別委員会、ICT活用推進検討委員会委員長(令和5年1月現在)



公式ホームページ

中村やすひろ



中村康弘
facebook.

TEL: (03)3312-2831(区議会控室) 発行: 杉並区議会議員 中村康弘